

# 『ニューエクスプレス ビルマ語』修正一覧 (全9ページ)

2018年4月13日改訂版

『ニューエクスプレス ビルマ語』は、おかげさまで版を重ねていますが、第1刷(2015年7月20日発行)には相当な数の打ち込みミスがありました。また、この本を使って授業をしてみたところ、説明の変更や追加が必要だと思われる部分がたくさん出てきてしまいました。そこで、第1刷、第2刷、第3刷におきましては、かなりの修正を行っています。2017年3月30日発行の第4刷以降は修正を行っておりません。したがいまして、第1刷、第2刷、第3刷をお買い求めいただきました読者の皆様には、たいへん申しわけないのですが、この修正一覧をご覧いただき、学習の際の参考にしていただきたく思う次第です。修正した部分を赤で示しています。読者の皆様方にはご不便をおかけしまして、たいへん申しわけございません。

筆者

## 目次

1. 第1刷にほどこした修正 (すなわち、第2刷では直っています) p.1
2. 第2刷にほどこした修正 (すなわち、第3刷では直っています) p.4
3. 第3刷にほどこした修正 (すなわち、第4刷では直っています) p.6

## 1. 第1刷にほどこした修正 (すなわち、第2刷では直っています)

### p.014、「1. 声調」の前の段落の後半 (※より正確な言い方に訂正)

<修正前>

いっぽうのハイフンは、ひとつの単語の中に切れ目があって（いわゆる形態素境界です）、それを特に明示したいときに用います。たとえば、動詞 **ရှိ** nì 「赤い」に名詞化接頭辞 **အ** ?ă がついたとき、**အရှိ** ?ă-nì 「赤色」のように書きます。言いかえると、ある単位とある単位がつながったとき、そのつなぎ目が単語の外側にあれば ‘=’ で示し、単語の内側にあれば ‘-’ で示すということになります。これにより、文中の要素間の結びつきが分かりやすくなるので、便利だと思います。ただ、学習においてはあまり気にする必要はありません。

<修正後>

いっぽうのハイフンは、ひとつの単語の中に切れ目があって（いわゆる形態素境界です）、それを**説明上** 特に明示したいときに用います。たとえば、動詞 **ရှိ** nì 「赤い」に名詞化接頭辞 **အ** ?ă がついたとき、**အရှိ** ?ă-nì 「赤色」のように書くことがあります (**?ăni** とすることもあります)。言いかえると、ある単位とある単位がつながったとき、そのつなぎ目が単語の外側にあれば ‘=’ で示し、単語の内側に**あってそれを明示したいとき** ‘-’ で示します。これにより、文中の要素間の結びつきが分かりやすくなります。ただ、学習においては無視してもかまいません。

p. 023、「8. イントネーション」図の下の段落 (※分かりやすいよう、赤で示した部分を追加)

<修正前>

最後の **dè** は低平調ですから、低く平らに発音すればいいわけです。しかし、山なりに発音されることがあります。

<修正後>

最後の **dè** は低平調ですから、低く平らに発音すればいいわけです。しかし、**上に図示したように** 山なりに発音されることがあります。

p. 029、表 3 の下に掲げた語例のところ (※発音の実態に即し、赤で示した行を追加)

<修正前>

○**Ә**: wúN 「腹」

○**ㄊ**ō<sup>ㄉ</sup> tàwùN 「責任」

○**ㄩ**ō<sup>ㄩ</sup> wε?wùN 「熊」

<修正後>

○**Ә**: wúN 「腹」

○**ㄊ**ō<sup>ㄉ</sup> tàwùN 「責任」

○**ㄩ**ō<sup>ㄩ</sup> wε?wùN 「熊」

なお、**○**Ә**:** 「腹」は wán や wín と発音する人もいます。

p. 030、表 4 の下 (※発音の実態に即し、赤で示した行を追加)

<修正前>

○**ㄛ**wu? 「着る」

○**ㄛ**wú? 「うずくまる」

<修正後>

○**ㄛ**wu? 「着る」 (**wi?** と発音する人もいる)

○**ㄛ**wú? 「うずくまる」

p. 039、「単語」のリスト (※斜線ではなく括弧を使うべき)

<修正前>

Ѡ mâ/**ma?** 女性に使う敬称のひとつ

<修正後>

Ѡ mâ (**ma?**) 女性に使う敬称のひとつ

p. 045、「単語」のリスト (※カレーを指す場合もあるため、赤で示した訳語を追加)

<修正前>

ѿ**ር**: híN おかげ

<修正後>

ѿ**ር**: híN おかげ、**カレー**

p. 073、コラム「数詞+助数詞」の中、中段あたりの例 (※声調符号を削除)

<修正前>

တစ်ချွန် dǎ-jà? 「1 チャット」

<修正後>

တစ်ချွန် dǎ-já? 「1 チャット」

p. 086、「1. ~なので／~だから」と「2. ~だが／~なのに」に挙げた例文 (※発音表記を修正)

<修正前>

bai? nà=lô mǎ-~~twà~~=bú 腹が痛いので行かない

mó mǎ=ywà=lô ~~twà~~=dè 雨が降らなかつたので行つた

mó ywà=bèmê ~~twà~~=dè 雨が降つたけれど行つた

mó mǎ-ywà=bèmê mǎ-~~twà~~=bú 雨が降らなかつたが行かなかつた

<修正後>

bai? nà=lô mǎ-~~twá~~=bú 腹が痛いので行かない

mó mǎ-ywà=lô ~~twá~~=dè 雨が降らなかつたので行つた

mó ywà=bèmê ~~twá~~=dè 雨が降つたけれど行つた

mó mǎ-ywà=bèmê mǎ-~~twá~~=bú 雨が降らなかつたが行かなかつた

p. 101、「表現力アップ」の最初の例文 (※発音の実態に合わせ、赤で示した部分を追加)

<修正前>

twê=yâ=dà wún ~~tà~~=bà=dè

<修正後>

twê=yâ=dà wún(wán, wín) ~~tà~~=bà=dè

p. 117、「~してから…経つ」のところ (※声調表記を修正)

<修正前>

経過時間 ရှိပါ ~~ei~~=bi

<修正後>

経過時間 ရှိပါ ~~ei~~=bi

p. 142、「ヒント！」に挙げた最初の例（※赤で示した部分を追加）

<修正前>

ສຳເຫຼັບເຕັມ sà?ou?=twè

<修正後>

ສຳເຫຼັບເຕັມ **di** sà?ou?=twè

p. 150、下から 2 行目（※正確な意味を理解してもらうため、赤で示した部分を追加）

<修正前>

ລູຍໍ lwe ~しやすい（本動詞としての意味は「簡単な」）

<修正後>

ລູຍໍ lwe ~しやすい [「～の状態になりがちな」の意]（本動詞としての意味は「簡単な」）

p. 157、右列

<修正前>（※赤で示した行を追加。動詞 ຕົກຕົວ ບのエントリーがなかったため）

～ທຸນ: thé/dé たったの～

～ທິດ ta?/da? （～することが）できる [能力可能]

<修正後>

～ທຸນ: thé/dé たったの～

ທິດທາຍ ta?=tè できる、能力がある

～ທິດ ta?/da? （～することが）できる [能力可能]

## 2. 第 2 刷にほどこした修正（すなわち、第 3 刷では直っています）

p. 041、「6. 代名詞」の最下部（※赤で示した部分を追加。より正しい綴りを示すのがよいとの判断）

<修正前>

.....親族名称を使います。（5 課参照）

<修正後>

.....親族名称を使います。（5 課参照）

「私」を表す ຜົນົວ と ຜົມ は、格式張った文章ではそれぞれ ຜົນົວເຕັມ および ຜົນົວໜ້າ と綴るのが一般的です。

p. 087、「5. 強調の助詞 〇 pé/bé」の説明の中にある例文の発音記号 (※ダブルハイフンを追加)

<修正前>

dà khédàN bé 「これは鉛筆だよ！」

dà khédàN bà 「これは鉛筆です」

<修正後>

dà khédàN=bé 「これは鉛筆だよ！」

dà khédàN=bà 「これは鉛筆です」

p. 092、「1. A のほうが B より～だ」の最後の例文 (※声門閉鎖音を表す記号を削除)

<修正前>

dà=nê ?dà bè hà pò káun=dă=lé

<修正後>

dà=nê dà bè hà pò káun=dă=lé

p. 111、項目 7 番の見出 (※発音表記の声調符号を修正)

<修正前>

အင်နဲ့ ?ănè=n̄e 「～として」

<修正後>

အင်နဲ့ ?ănè=n̄e 「～として」

p. 125、「表現力アップ」の 6 番目と 7 番目の例文 (※正式とされる綴り字に修正)

<修正前>

■何階にありますか ဘယ်နှစ်ထပ်မှုရှိသလဲ။

■何分かかりますか ဘယ်နှစ်မိန်ကြာမလဲ။

<修正後>

■何階にありますか ဘယ်နှစ်ထပ်မှုရှိသလဲ။

■何分かかりますか ဘယ်နှစ်မိန်ကြာမလဲ။

p. 129、「6. ဘယ်သွားသွား bè t̥wá t̥wá 「どこへ行くにも」」の 1 行目～2 行目 (※語句を追加)

<修正前>

... 「いかに～しようとも」のような表す表現を作ることができます。

<修正後>

... 「いかに～しようとも」のような意味を表す表現を作ることができます。

p. 155、右列、中段 (※「～」を追加)

<修正前>

ငောဇ် sèjìn/zèjìn ～してもらいたい

<修正後>

～ငောဇ် sèjìn/zèjìn ～してもらいたい

### 3. 第3刷にほどこした修正 (すなわち、第4刷では直っています)

p. 018、4行目 (※発音表記の声調符号を修正)

<修正前>

ငွေး hñà [フガー] 「借りる、貸す」

<修正後>

ငွေး hñá [フガー] 「借りる、貸す」

p. 021、「6.」の前の段落 (※第一刷以降に判明した事実に伴って、説明を全面的に変更した)

<修正前>

なお、最近、ヤンゴンの若い世代では、tなどの歯茎音の後で、ε?とa?の区別がなくなりつつあるようです。このため、ε?がa?に聞こえたり、逆にa?がε?に聞こえたりすることがあると思います。戸惑わないよう、知つておくとよいでしょう。

<修正後>

なお、最近、ヤンゴンの若い世代では、ε?とa?の区別がなくなりつつあるようです。そのような人はどちらも[æ?]のように発音しますので、ε?がa?に合流しつつあると見ることができます。人によっては、tやcなどの特定の子音の後でのみこうした合流が起きています。

p. 026、(1)に示したビルマ文字の2行目 (※字母の誤りを訂正)

<修正前>

၏ phyâ

<修正後>

၏ phyâ

p. 029、「表 3: 末子音 N で終わる音節の表し方」の最左列 (※音節末子音の発音表記の誤りを訂正)

<修正前>

i<sub>N</sub>    au<sub>N</sub>    ai<sub>N</sub>    aN    ei<sub>N</sub>    ou<sub>N</sub>    uN

<修正後>

i<sub>N</sub>    au<sub>N</sub>    ai<sub>N</sub>    aN    ei<sub>N</sub>    ou<sub>N</sub>    uN

p. 030、「表 4: 末子音 ? で終わる音節の表し方」の最左列 (※ハイフンを全て削除)

<修正前>

-ε?    -au?    -ai?    -i?    -a?    -ei?    -ou?    -u?

<修正後>

ε?    au?    ai?    i?    a?    ei?    ou?    u?

p. 036、「3. 疑問の助詞 ウツ: lá」の説明部分 (※赤で示した部分を追加。音声のより良い理解のため)

<修正前>

ㄩèㄊㄥㄌㄨ：|| dà khédàN=lá これは鉛筆ですか？

ㄩㄜㄉㄨ：ㄌㄨ：|| ?édà khwé=lá それは犬ですか？

疑問文の場合、丁寧さを表す ㄩ pá を使わなくてもなぜかぶつきらぼうにならないため、ふつうは ㄩ pá を使いません。

<修正後>

ㄩèㄊㄥㄌㄨ：|| dà khédàN=lá これは鉛筆ですか？

ㄩㄜㄉㄨ：ㄌㄨ：|| ?édà khwé=lá それは犬ですか？

ただし、ウツ: lá はゆすり音調(p.023)で発音されることがよくあります。後述する ㄩ lé も同様です。

疑問文の場合、丁寧さを表す ㄩ pá を使わなくてもなぜかぶつきらぼうにならないため、ふつうは ㄩ pá を使いません。

p. 053、「解答」の問 2 (※練習問題の解答が間違っていました。申しわけありません。)

<修正前>

2. 1) ㄩ lé 2) ㄩ lé 3) ウツ: lá 4) ㄩ lé

<修正後>

2. 1) ㄩ lé 2) ウツ: lá 3) ウツ: lá 4) ㄩ lé

**p. 067、中段の説明 (※慣用読みを示しておいたほうがよいとの判断)**

<修正前>

「11～19」は、**ဆယ့်** の後に 1 から 9 を表す数詞をつけます。ただし、このとき **ဆယ့်** の声調が変わって、**ဆယ့်** となります。

<修正後>

「11～19」は、**ဆယ့်** の後に 1 から 9 を表す数詞をつけます。このとき **ဆယ့်** の声調が変わって、**ဆယ့် shê/zê** となります。同じ綴りで **shəʔ/zəʔ** とも発音します。

**p. 067、前修正事項の下の説明 (※慣用読みを示しておいたほうがよいとの判断)**

<修正前>

「20, 30, ... 90」に「1 の位」がつくときにも **ဆယ့်** の声調が変わって **ဆယ့်** となります。

<修正後>

「20, 30, ... 90」に「1 の位」がつくときにも **ဆယ့်** の声調が変わって **ဆယ့်** となります。この発音も **shê/zê** または **shəʔ/zəʔ** の 2 通りがあります。

**p. 067、下から 3 行目 (※発音表記部分の最後の声調符号を修正)**

<修正前>

1685 တစ်ထောင့်ခြောက်ရှုရှစ်ဆယ့်ငါး tāthâunchau?yâei?shêŋâ

<修正後>

1685 တစ်ထောင့်ခြောက်ရှုရှစ်ဆယ့်ငါး tāthâunchau?yâei?shêŋá

**p. 098、「3. 良く」の説明 (※赤で示した一文を追加。説明不足と感じたため)**

<修正前>

**ကျောင်းကျောင်း** káungáun 「上手に」は動詞 **ကျောင်း** 「良い」を重ねた形です。これを疊語と言います。動詞を疊語にすると副詞的に働く語ができます。

<修正後>

**ကျောင်းကျောင်း** káungáun 「上手に」は動詞 **ကျောင်း** 「良い」を重ねた形です。これを疊語と言います。疊語の後部音節は頭子音が有声化します。動詞を疊語にすると副詞的に働く語ができます。

p. 121、最下行の単語の和訳（※和訳をより正確なものに変更）

<修正前>

ဒီထောင် di=dɛ?(the?) これよりも

<修正後>

ဒီထောင် di=dɛ?(the?) これ以上

p. 129、最下段（※赤で示した二文を追加。若い世代の言語実態に触れるのがよいと判断したため）

<修正前>

13 課で、動詞の畠語形が副詞的に機能することを勉強しました。たとえば ကျောင်းကျောင်းကျောင်းမရဘူး။ káungáun が「上手に」を表すといったものです。「疑問表現 + VV」の動詞は重なっているという点で畠語形と似ていますが、畠語形とは違って 2 番目の音節の頭子音が有声化しないことに注意してください。次の例を「上手に」と比べてください。

ဘယ်လောက်ကျောင်းကျောင်းမရဘူး။

bălau? káun káun mă-yâ=bú

どんなに良くてもダメです

<修正後>

13 課で、動詞の畠語形が副詞的に機能することを勉強しました。たとえば ကျောင်းကျောင်းကျောင်း káungáun が「上手に」を表すといったものです。「疑問表現 + VV」の動詞は重なっているという点で畠語形と似ていますが、畠語形とは違って 2 番目の音節の頭子音が有声化しないことに注意してください。次の例を「上手に」と比べてください。

ဘယ်လောက်ကျောင်းကျောင်းမရဘူး။

bălau? káun káun mă-yâ=bú

どんなに良くてもダメです

ただし、若い世代では動詞の畠語形で有声化が起きない話者もいます。そのような人は「上手に」を káunkáun と発音します。

p. 133、単語リスト、後から 4 つめ（※発音表記部分の最後の声調符号を修正）

<修正前>

ကိုယ့်ဟာကိုယ့် kô hà kô 自分で(p.137 表現力アップ参照)

<修正後>

ကိုယ့်ဟာကိုယ့် kô hà kô 自分で(p.137 表現力アップ参照)

p. 158、左列の中ほど（※和訳をより正確なものに変更）

<修正前>

ဒီထောင် di=dɛ?(the?) これよりも

<修正後>

ဒီထောင် di=dɛ?(the?) これ以上